

## 背景と目的

- ・地域における担い手不足が深刻な中、集落機能維持のためには、地域の様々な人や資源を「組み合わせ」て活用する必要があります。特に農村部では、一次産業従事者の生活リズムを考慮した検討が必要と考えられます。
- ・本研究では、農村地域における一次産業従事者を中心とした地域住民の生活リズムと空間利用の特徴を抽出し、事例地域における地域住民が潜在的に共有可能な時間・空間の分布を推計することを目的とします(図1)。

## 成果

### A. 道内一次産業に関する既存情報収集整理と対象地域選定

- ・市町村内に「稲作」「園芸農業」「畑作」がそれぞれ見られる地域では、農作業に係る作業時間の多様度が高くなりました。

### B. 対象地域における一次産業従事者等の生活の時間的・空間的特徴抽出

- ・稲作や園芸などの耕種農業を行う農家では、作業後の夕方以降に外出時間を確保していました。
- ・酪農家では、朝夕に搾乳を行うため、主にその間の時間に外出時間を確保していました。
- ・遠隔地の一次産業従事者は、買い物等のため日常的に遠方の市街地まで移動していました。

### C. 地域住民が潜在的に共有可能な時間・空間の分布の推計

- ・市町村の範囲では、共有可能な人数には、時刻設定の影響が大きいことがわかりました(図2)。より広域では、時間と場所の両方を考慮することで、よりたくさんの人が集まれる時間、場所を選択できることがわかりました。
- ・店舗による開店時刻、閉店時刻の違いのため、夕方以降にスーパーマーケットを利用する場合は、最寄りのスーパーマーケットより遠くへ行かなければならない地域が広く存在することがわかりました(図3)。

## 成果の活用

本研究の成果は、一次産業従事者の多い農漁村地域において、地域の実質的な利便性の評価や、効果的な拠点整備の検討を行う際の手法の一つとして活用されます。

### 1. 道内一次産業に関する既存情報収集整理と対象地域選定

- ・一次産業の種別とその分布に係る統計データの収集整理
- ・一次産業の構成とその多様さの範囲の把握



### 2. 対象地域における一次産業従事者等の生活の時間的・空間的特徴抽出

- ・一次産業従事者への聞き取り調査の実施
- ・生活の時間的・空間的特徴の抽出



### 3. 地域住民が潜在的に共有可能な時間・空間の分布の推計

- ・時地点ごとの共有可能な住民数の推計
- ・営業時間を考慮した生活利便施設への近接性の推計

図1 研究フロー

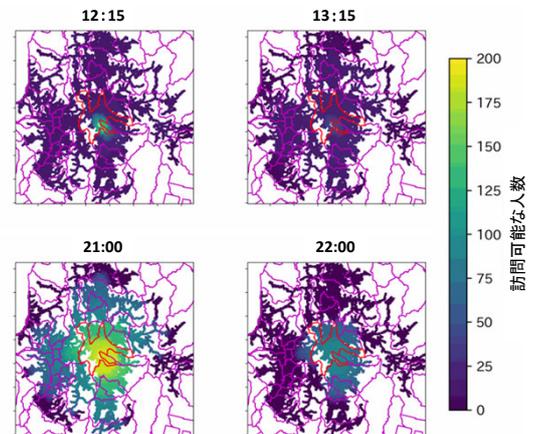


図2 時刻ごとに見た訪問可能な一次産業従事者数の地理的分布(旭川市西神楽地区の事例)

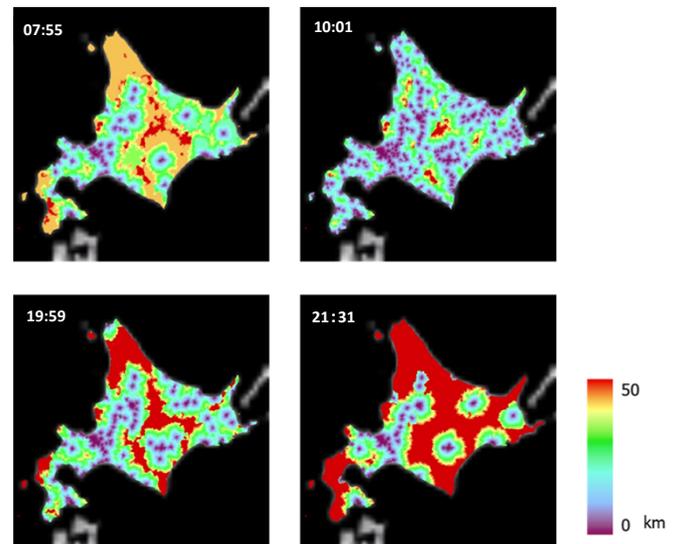


図3 時刻別に見た利用可能なスーパーマーケットまでの距離